

学校支援センターの取組状況について

1 若手教員に対する伴走型支援の実施状況について（令和4年度）

(1) 集合研修

①令和4年5月9日・半日 講話・グループ協議

②令和4年8月22日・一日 西条小「オペラ『白壁の街』」練習参観・サタケ工場見学・グループ協議
養護教諭も含め、東広島市への理解を深め5年目の教員同士のつながりをつくる貴重な場となった。

同じ環境にある者同士の交流を深めるため、令和5年度親睦会を予定している。「お互いの授業を参観したい」という希望が多くあり、来年度は授業公開の集合研修を実施する。

(2) 個別支援

- ・37人の5年目教員に対し、165回の訪問支援を実施。トータルでは300回以上の面談を実施。
- ・その他、臨採も含め学級経営に悩む若手教員を2名重点支援。

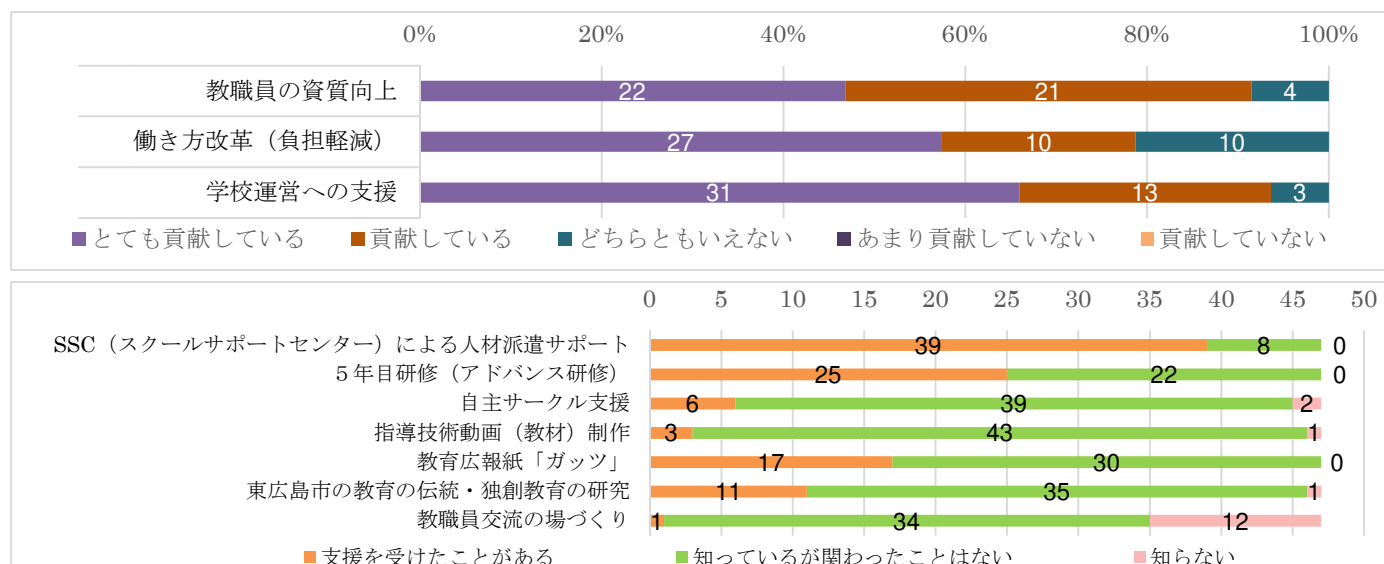
(3) 自主サークル活動の支援

- ・社会科サークルの継続を支援—会員数が倍に増加。
- ・体育サークルを開始。20名で発足、4回会合実施。会場予約をサポート。

(4) 管理職との連携

- ・校長からの要請で、正式採用、臨時採用を問わず支援活動（河内小・下黒瀬小）を行った。

2 若手教員に対する伴走型支援の効果について



3 スクールサポーター（退職教員）による支援（教科指導、学校運営、学校環境整備、部活動支援）の状況について

		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
スクールサポーター	登録人数	58人	130人	150人	178人
	稼働人数	57人	68人	70人	112人
相談・支援	件数	332件	367件	450件	682件
	時間数	2,323時間	5,876時間	5,349時間	10,688時間
	訪問校数	2園39校	2園39校	42校	2園41校

4 成果と課題

○発足初年度として、若手教員への伴走型支援、スクールサポートセンターによる人材派遣等、本センターの取組について、高い認知度と肯定的評価を得ることができた。

●ICT活用や生徒指導等の今日的課題に係る支援、初任者研修を終えた若手教員の学びの場を充実させる必要がある。

5 今後の取組について

(1) ICTを活用した授業づくりに対する支援の充実

国が示す配置基準（4校に1人）に対し、令和7年度の到達を目指して、ICT支援員（授業支援）が2人配置されており、新しい時代の学びの支援を行っている。

(2) 若手教員への支援充実

- ・授業参観を新設（6年目教員代表・指導教諭）
- ・2、3、4年目教員への個別支援実施

未来へチャレンジする小中学校を支え、応援。東広島の伝統を受け継ぎ、教職員の成長をサポート

学校支援センター

市役所4F 402室

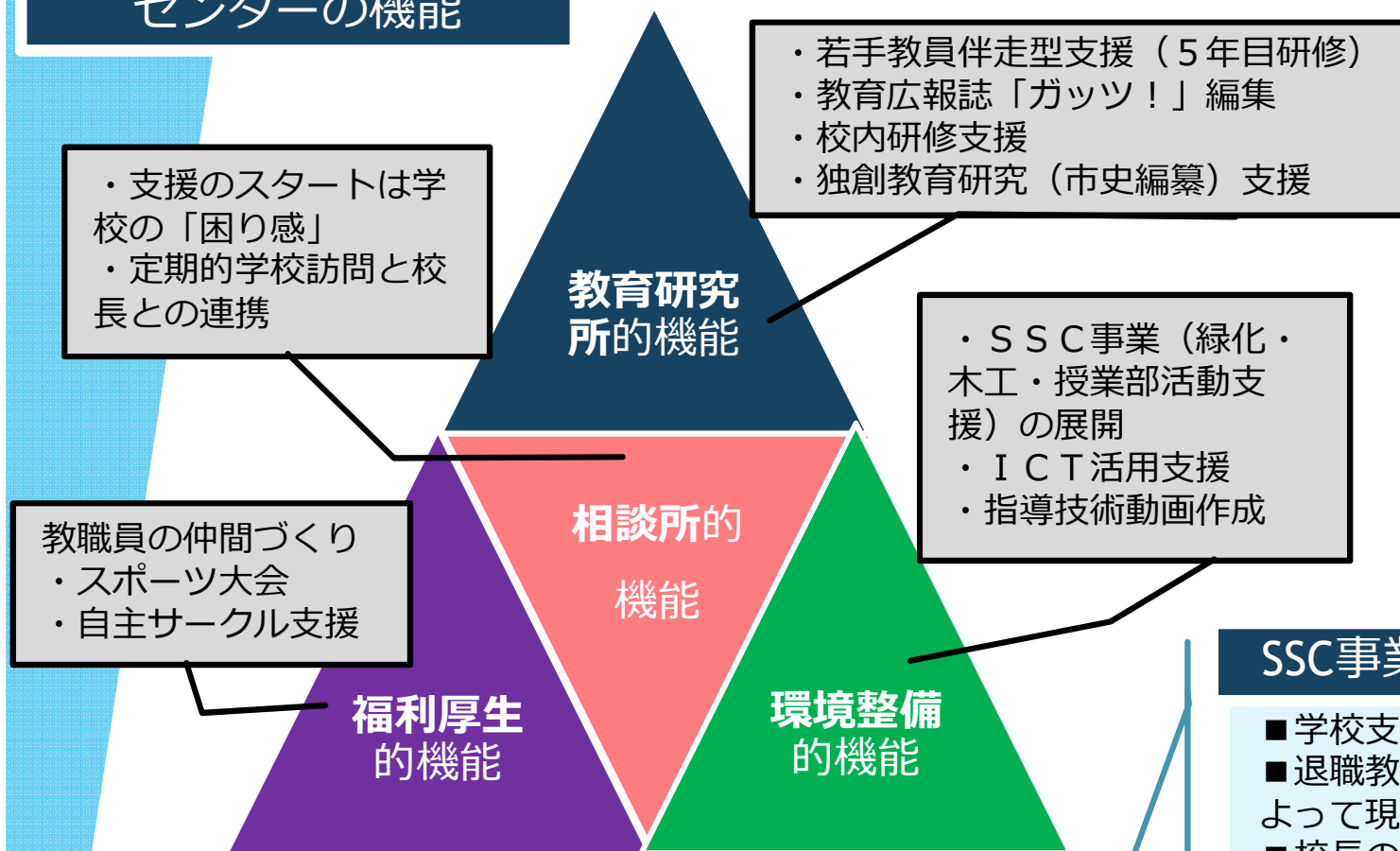


421-1155



FAX 420-0914

センターの機能



現状

- 教職員の欠員、臨時的な業務の発生に対するオンデマンドの支援が必要。
- 4年勤務で他市町に異動、転入の5年目教職員に期待。
- コロナ禍の中で教職員の交流と成長の場、専門性を高める場が不足。
- GIGAスクール推進、遠隔授業など最先端の取組と日常的授業での活用に課題。
- 生徒指導・保護者対応、校長の経験や学校規模に応じた学校運営支援が必要。

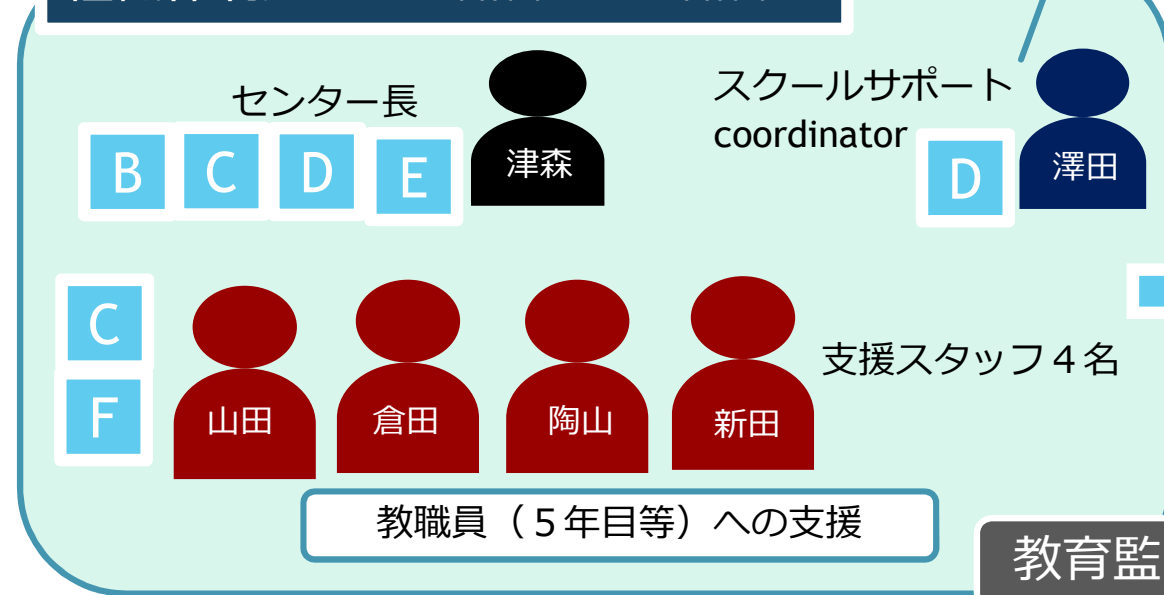
支援策

- ①SSC（スクールサポートセンター）の人材派遣。5年目、150件・1000時間超
- ②5年目教職員伴走型支援（授業参観と面談）若手のニーズに応じた支援活動。
- ③自主サークル活動の拡大。教職員スポーツ交流大会等の交流の場の設定
- ④ICT支援員が日常的な活用を支援（GIGAつつ・教材紹介や共有財産化を推進）
- ⑤学校経営アドバイザー4名が、課題に応じて学校を訪問するなど短期集中支援。

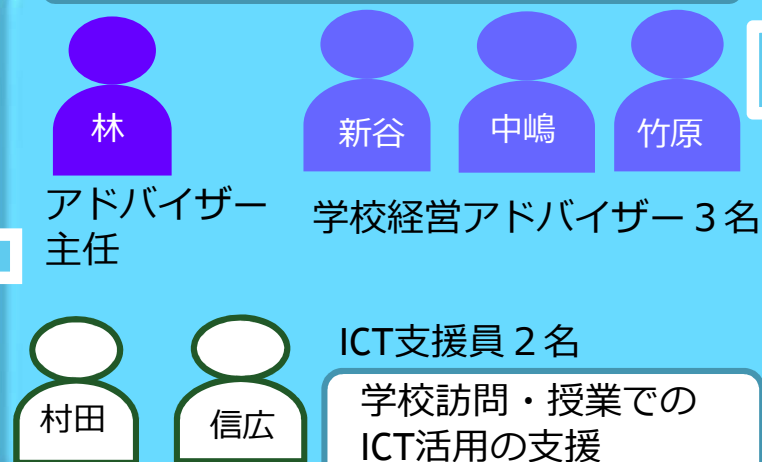
SSC事業（学校への人材派遣支援）

- 学校支援センターの役割を代表する事業 5年目 予算額1000万円
- 退職教員の特技や経験を生かして学校現場を支援し負担を軽減しようとするもの。派遣によって現場の教員との交流を図る。技術や知識の継承も目的。
- 校長の要請に応じて人材を多様に派遣するが、現場の欠員を補充するものではない。

組織体制見込 6名体制→12名体制



学校訪問・管理職（校長）への支援



教育監・指導課

期待される効果

- 若手支援・校長支援・ICT支援というマルチな視点での学校支援
- 拡大したマンパワー活用によるセンター独自事業の推進
- 学校における学校支援センターの認知度・貢献度の向上（目標100%）

センター独自事業

- A 指導技術動画作成
- B 自主サークル支援
- C ガッツ編集
- D 教職員交流
- E 独創教育研究
- F センター内庶務

若手教員への伴走型支援の拡充

① アドバンス研修（5年目教職員対象）に授業参観研修を追加



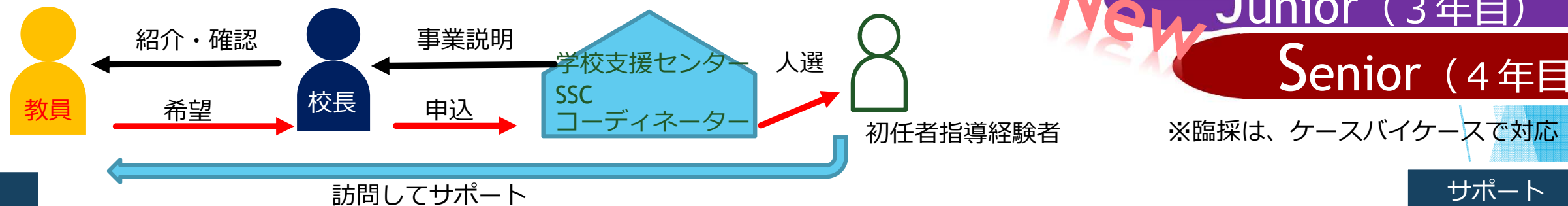
New オンライン交流・実施日・曜日・時間を決めて、所属校で

② 2・3・4年目教員への個別支援を新設—SJS研修（10名程度）

Sophomore（2年目）

New Junior（3年目）

Senior（4年目）



●1年目Freshman時代は、手厚い指導。2年目以降との落差が大きいという声。指導課のステップアップ研修があるものの、希望数は多くない

- 対象者の担任や校務の状況に応じて負担になりすぎない計画を立てる。
- 訪問回数や授業回数も特に定めない。年度途中で終了あり。

教員の交流・自主研修の機会を確保

③ 自主サークル新設・活性化を支援

社会科サークル 1991年～

会員数28名 金曜日19時-21時 年9回開催

New 体育サークル 2022年～

会員数20名 金曜日18時-20時 年4回開催

読み語り（この本大好きの会）サークル 1991年～

会員数15名 不定期 年4,5回開催



・理科 ・図工美術 ・英語
・特別活動 その他

R5新設
見込み

④ 教職員スポーツ交流大会など計画

教職員スポーツ交流大会

ソフトボール・ソフトバレー 会場：市内小中学校

8月
第1土曜日
予定

New 教職員親睦パークゴルフ大会（仮称）

市内パークゴルフ場

年末予定

